

渋沢栄一が設立に関わった企業のDNAを探る 第7回

## 帝国ホテル 千代田区

### 渋沢の言葉が企業理念の根幹を成す

#### 同社設立に寄与

明治23年、欧米に引けを取らない西洋式グランドホテルの建設が欧化政策には必須であるとの考えのもと、井上馨外務卿の呼び掛けに応じた渋沢栄一らによって帝国ホテルは開業された。明治30年以降になると訪日外国人客が増加したことから、新館の建設構想が持ち上がる。初代取締役会長に就任していた渋沢は、最大のネックとなった用地取得に尽力し、二代目の帝国ホテル(ライト館)建設にも大いに貢献した。

#### 帝国ホテルが担う役割

渋沢は職を辞した後も度々同社を訪れ、その中で、従業員に対して次のような言葉を掛けている。「君達が丁寧に能く尽くして呉れば、帰っていく人たちに日本を忘れずに帰らせることが

出来る。国家の為にも非常に大切な仕事である」(一部抜粋)。

この言葉に対し、同社の小林哲也取締役会長は「ホテルは国の印象を決めてしまうくらい大きなインパクトを持っている。渋沢は自身の経験から、ホテルが民間外交の一翼を担っていると認識していたのでしょ」と推察する。

#### 渋沢の言葉が企業理念に

小林会長は渋沢が残した重要な言葉



初代帝国ホテルの外観

提供: 帝国ホテル

として、渋沢が同社の開業式の際、東京府知事の祝辞に対して述べた挨拶を挙げている。「用命があれば世界のどんなものでも調達して便宜を図る。これこそ帝国ホテルが自身の果たすべき役割と心得、絶対に譲らないところだ」(一部抜粋)

これらの言葉は同社の企業理念に受け継がれている。小林会長は「言葉に示された矜持と責任感、当社に連綿と引き継がれている。文化発信も役割の一つと捉え、バイキングやディナーショーを国内で最初に始めた」と語る。

#### 「論語と算盤」に則した経営を

来年は東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されるとともに、同社は開業130周年の節目を迎える。同社の目指す姿として小林会長は、「社員がお客様に対して、いかに謙虚で一生懸命に接遇するか。これでお客様の評価は決まる。特別に何かをするのではなく、培ってきた経験・知識・情報などを活かして、今まで通りお客様に喜んでもらう。これに尽きるだろう」と力強く語る。

一方、渋沢の「論語と算盤」に則した経営も大切だと話す。「適正な利潤を



小林哲也取締役会長

上げつつ、ハード・ソフト・ヒューマン(人材)に投資し、社会に貢献していく。今後もそれらを意識しながら、帝国ホテルを発展させていきたい」。

開業から約130年を迎える今も、渋沢の教えは脈々と受け継がれている。



渋沢栄一胸像  
同社への貢献を称え、従業員一同によって、ホテルの敷地内に建設された



featuring

# 渋沢栄一

## 受け継がれたDNAとその言葉

東商初代会頭の渋沢栄一は、当時500を超える企業の設立に関わった。「民の力を強くしなければ、世の中の繁栄はない」「公益と私益の両立」といった渋沢の「意志」は現代でも脈々と受け継がれている。その意志をつなぎ現在も活躍する企業の取り組みや想いを紹介するとともに、渋沢が残した言葉の意味を検証し、これからの経済社会の在り方を考える機会としていきたい。

### 渋沢栄一の言葉

第35回

事業界のこともまたこの理に外ならぬもので、多く社会を益することではなく、正徑な事業とはいわれない。

【論語と算盤:合理的の経営】



「合理的」とは無駄を省く、効率性を重視するなど、理に適った行動を示します。企業経営がコスト削減を図り、ROE(株主資本利益率)を高めるなどの方針に資本市場が好感する。これが、合理的な経営というイメージです。

自社株買いという財務的ツールも活用し、株価を支えて株主の利益を重視することによって経営者も多額な報酬を得る、株主と経営の利益が一致していることが企業ガバナンスの基本としています。私が1980年代の米国MBA時代に学んだ「企

業価値」とは、株主価値=発行株数×株価=時価総額であり、現在でもその考えは根強いです。

ただ、本年の8月中旬に米主要企業の経営者団体であるビジネス・ラウンドテーブルは、顧客、従業員、取引先や地域社会という企業のステークホルダーの利益も尊重した事業運営に取り組む、「株主第一主義」の見直しを宣言しました。

1「顧客に価値を届ける」、2「従業員に投資する」、3「取引先に公正的・倫理的に接する」、4「社会を支える」、5「株

主に長期的価値を還元する」

従来の「株主第一主義」の企業価値の定義には近視眼的な経営になる欠点があります。本年度の企業価値を高めるために、将来の設備投資や人材育成への資金投入を控えて目の費用削減などで「数字をつくる」ことに目がくらんでも、株価が上昇すればよしという考えに陥りがちです。

しかしながら、今回のビジネス・ラウンドテーブルの宣言は、企業の長期的な価値が重要であるということを明記して

います。短期的株主利益が主ではなく、企業の持続的な価値創造に焦点を合わせていることが注目すべき変化です。

渋沢が示した『理』とは「常に自己のことよりも、国家社会を利する」という道理です。つまり、渋沢が考えた「合理的な経営」とは株主だけではなく企業の様々なステークホルダーも合わせて利する経営ではないでしょうか。

シブサワ・アンド・カンパニー社長  
渋澤 健

## 神戸 ビフテキのカワムラ

会員 No.C-2772124

#### 東京銀座店



カウンター12席



個室4室(6・6・6・10席)

#### 六本木店



カウンター16席



個室6室(4・6・6・6・10・10席)



ビフテキのカワムラは希少なメスの神戸ビーフにこだわり最高の物を厳選し、お客様にご提供させていただいております。



神戸ビーフの証「のびぎく判」



熟練のシェフが目前で焼き上げます。



チャンピオン牛櫃



子牛登記証

東京銀座店 東京都中央区銀座6丁目5-1 プリオール銀座ビル8階 TEL. 03-6252-5011  
六本木店 東京都港区六本木4-2-35 アーバンスタイル六本木三河台B1 TEL. 03-5775-6633

ビフテキのカワムラ 東京 検索